

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1195100092		
法人名	株式会社 ユニマツトそよ風		
事業所名	新座北野グループホームそよ風		
所在地	新座市北野1-5-16		
自己評価作成日	平成26年2月20日	評価結果市町村受理日	平成26年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=1195100092-00&PrefCd=11&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成26年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★ ひとりひとりの入居者様の日々の健康状態を介護職員が把握、同法人が運営している訪問看護を取り入れ医療面を強化。地域の医療機関、往診医と連絡を取り合いご入居者様へ安全・安心してご利用いただくよう心掛けている。
 ★ 介護職員の離職率が低く、入居時から継続して入居者様の状態を把握することができている。また、市内に同法人のグループホームがもう一か所あり、そちらと連携をみつにとり情報共有をおこなっている。
 ★ 地域のボランティアの方を招き、地域に根付いた開かれたホームを目指している。イベント開催や毎月行事を開催しご利用者様へ四季の変化を感じて頂くよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

● 運営推進会議の定期での開催、ボランティアの受入れなどの積極的な実施により、課題として取り上げられることの多かった地域との交流についても着実な進捗がなされている。管理者をはじめとする職員の地道な活動が実を結んでいる。
 ● 家族アンケートからは家族からも厚い信頼が寄せられていることがわかる。丁寧なケア、温かな対応、真摯な職務遂行などなど要因は数多く挙げることができる。
 ● 法人による研修の後援や管理は安定した運営の基盤となっている。法人内の他施設との連携は、気づきや刺激となっており、様々な相乗効果を生み出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の目にとまりやすい場所に理念等の掲示がしており、ミーティングなどで再確認する機会がある。	法人および事業所の理念を掲示し、温かな家庭的支援の実践に努めている。法人による管理や法人内の他施設との連携した取り組みにより職員の指導に邁進している。	若い・経験の浅い職員の育成を課題として捉えており、長期的視野を持って取り組んでいくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出や町内へ買い物に行く機会をつくっている。 町内会に参加して、町内のイベントにも参加している。	地域の子どもたちの行事等での来訪、図書の読み聞かせなどのボランティアの受け入れがなされている。地域とのつながりを意識し、難しい課題に積極的に取り組み成果を導きだしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事を中心に、地域の方々に参加していただけるような内容を盛り込み、気軽に参加してもらい、入居者と接する機会を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地域運営推進会議を開き、活動報告や現況を伝えている。 会議での話し合いをサービスの向上に活かせるようにしている。	行政、民生委員、町内会の方々が出席し、事業報告等がなされている。なるべく出席してもらえよう工夫した取り組みにより定期での開催が実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員から情報を受けたり、相談や報告を必要に応じて行っている。	運営推進会議議事録を行政に持参するなど、いつでも連携と相談できるよう努めている。他の社会資源とも協力関係を築きながら運営にあたっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、入居者様の状況やホームの立地環境を加味し、施錠している。 ホーム内で定期的に身体拘束の研修を行っており身体拘束にあたらぬケアに留意している。	安全を優先しつつ、「ホームで囲む」ことのないよう取り組んでいる。行政等の指導を仰ぎながら適切なケアの実践に努めている。	身体拘束について事業所全体での認識について考察がなされており、継続して職員への周知が図られていくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の大小に関わらず、日常生活の中で常に意識して介護にあたり、ホーム内で定期的に虐待防止の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様がいる。 また、権利擁護に関する研修が市などから情報提供がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は所定の場所と時間を設定して書類の読み合わせなどでご理解が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や遠方に住んでいらっしゃるなかなか面会に来られないご家族様へ定期的に連絡をとり、意見や要望を取り入れる様心掛けている。	面会時や電話にて日常の様子を伝えたり、要望を聴取したりしている。アンケートからも話しやすい関係・信頼関係の醸成がなされていることが伺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やカンファレンスを行い、職員が気軽に意見が意見交換が出来る場を作っている。	ユニットおよびホーム全体の会議が定期的になされている。職員との距離感に配慮しながら意見を集約し、行事やレクリエーションがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修への参加や資格取得への相談・協力体制が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同じ市内にある同法人のグループホームに出向き交換研修を行うなど、サービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や入居時調査を行い、ご本人及びご家族の不安や要望を聞き、関係機関との連携を含め、ご本人の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に入居一か月は、ご本人及びご家族との連絡を密に取り、ご本人の不安が軽減するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話をしっかりと受け止め、不安や困っている事を見極めて出来る限り安心して生活出来る様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事は、行って頂けるようにし、潜在能力が引き出せ、達成感を味わって頂ける支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出などは自由にしていただける様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や外出などは自由にしていただける様支援している。	家族や知人の面会、ボランティアの来訪等により職員以外の方との関係維持への後援がなされている。また入居前からのこだわりに対しても継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で会話がはずんでいる時は尊重し、皆で楽しめる時間を提供したり、安心できる環境作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へのお見舞いや入所先への面会をさせていただいたり、関係者との情報交換が行える様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様との話し合いで、ご本人の思いをしっかり受け止められるよう支援している。	入居時のアセスメントと定期のモニタリングにより意向の把握に努めている。入居初期の観察と職員間での情報共有により本人本位のケアとなるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境をしっかり受け止め、その方らしい生活が継続出来る様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムを大切に居心地の良い過ごし方が出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、ご家族様の参加が得られない時は、面会時や電話での意向を聞き、介護計画に反映できる様にしている。	定期のモニタリングと職員の意見集約によりケアプランの策定がなされている。長期・短期での目標設定、評価による考察、細かな見直し等を通して自立支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活日誌や連絡ノートを共有できる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の小さな変化にもすぐ気づき、現状に即したサービスの提供が行えるよう、ご家族や関係機関との連携を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の催し物への参加や、商店への買い物などを支援している。行事などでも公共の場を使う事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様の希望に添って通院や訪問診療を受けていただける様、支援している。	協力病院による往診、法人内のナースステーションによる訪問看護の利用がなされている。日々の状態の報告をはじめ、連携と情報共有に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回訪問看護を受けている。個々の入居者の変化や新たなニーズを把握し、医療や看護につながる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時は情報の交換を必ず行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に移行をお聞きしたり、ご本人の変化に応じて、ご本人またはそのご家族様との話し合いをもてるようにし関係機関との連携をとっている。	重度化と終末期のケアについて、理念・体制・フローを新たにし、同意説明がなされている。重度化する利用者に対しても柔軟な対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の作成や関係機関への通報が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行い、災害時の避難場所を共有している。	地域の防災訓練への参加・備蓄の整備・避難訓練の実施・各種設備の設置等万一の事態に備えている。課題に対しての認識と対策にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の名前は姓で呼びかけ、プライバシーに関する事は他者に配慮しながら行っている。また法人にて今年プライバシーマークを所得している。継続更新維持をする為、定期的な研修を行っている。	声掛けについては利用者ごとに柔軟にかつその個性を尊重しながら行われている。プライバシーや個人情報についての研修も法人の後援を受けながら実施がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物外出は呼びかけをして、希望者と行えるようにしたり、入浴はご本人の様子を伺いながら、数回声掛けをして時間をおくなどして勤めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールはなく、その日の天候や雰囲気などによりお散歩や日光浴、フロアでの作業などしたいことをしていただける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの装飾品を付けていただき、好きな服装を選んでいただける様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ食事作りに参加していただき、ご本人のできる事を提供する様にしている。	利用者の状態や必要に応じて低たんぱくの食事を提供するなど柔軟な対応に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	規則的な生活を中心に、季節によって水分摂取に変化をつけたり、食事水分量の確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯みがきの励行を訪問歯科による口腔ケアを受けていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動を良く観察したり、チェック表などで排泄パターンを把握する。適切な声掛け誘導でご本人の自立を促したり、失禁が減るよう支援している。	記録の確認によるリズムの把握、サインや仕草からの誘導等によりトイレでの排せつを支援している。プライバシーに配慮した声掛けについても指導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を取り入れた食事や水分摂取を心がけている。排泄チェック表を活用して主治医や訪問看護との連携を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の好まれる時間帯やタイミングなどを図って、楽しく入浴できる様に支援している。	職員配置の配慮、ヒヤリハットの回覧、会議での注意喚起等により安全かつ快適な入浴となるよう体制の整備に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	20時頃居室に入ってもらったが、眠る時間は個人に任せている。また、テレビを見たい人にはリビングなどでも自由に見てもらい、日中も昼寝など出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録やお薬説明書をファイルし、いつでも見れるようにしている。また、服薬時のミスが起きないように複数で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事、テーブル拭きやほうきがけ・洗濯物たたみ、お茶入れなど、出来る方には日常的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出たり、ドライブに出る事もある。外出を取り入れた行事計画も年に数回ある。	初もうで・お花見などの行事や外気浴の実施などにより、外出しづらくなってきた利用者に対してもなるべく外にできることできるよう配慮しながら支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の預り金の中から、いつでもご希望に添えられる様にしている。お小遣い程度を本人で管理されている方もおり、近くのコンビニではご自身の財布からお支払をさせていただき支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけていただきご本人とゆっくり話を楽しんでいただいている。また、手紙を書いてもらう支援なども行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障害物を出来る限り取り除き、安全・安心して過ごせるようにし、騒音や室温、装飾など環境整備に努めている。	温度・湿度のチェック・掃除の徹底等により快適な室内となるよう努めている。庭には梅と桜が植えてあり、季節を楽しむ環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	踊り場にイスをおき、一人になれる空間作りや気の合う入居者様同士で居室を行き来できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ、衣服があり、いつでもご本人が使用できるようにしている。	寝具はその人の生活歴を考慮し、柔軟な対応がなされている。趣味やテレビ観賞など思い思いに過ごすことができる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活導線の安全確保や生成環境に努めるようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : 新座北野グループホームそよ風

目標達成計画

作成日: 平成26年4月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6(5)	身体拘束ゼロの継続・維持を行う為、職員ひとりひとりに身体拘束についての正しい知識を教育する。	ご利用者様ひとりひとりに身体拘束のない 安心で、安全は生活を送っていただく事を 目標とする。	定期的な研修会の開催や介護方法の見直し等 の話し合いの場を設け、職員全体で身体拘束 に対する知識を深め、介護の質、向上に努め る。	12ヶ月
2	1(1)	若い・経験の浅い職員の育成。	個々のスキルに合わせた教育の実施を行 い センター全体の介護の質を向上を目標とす る。	経験の浅い職員へのフォローアップ。定期的な 研修会を開催し知識と技術を教育する。資格 取得など職員のレベルに合わせた目標を設 定。モチベーションの向上を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。